

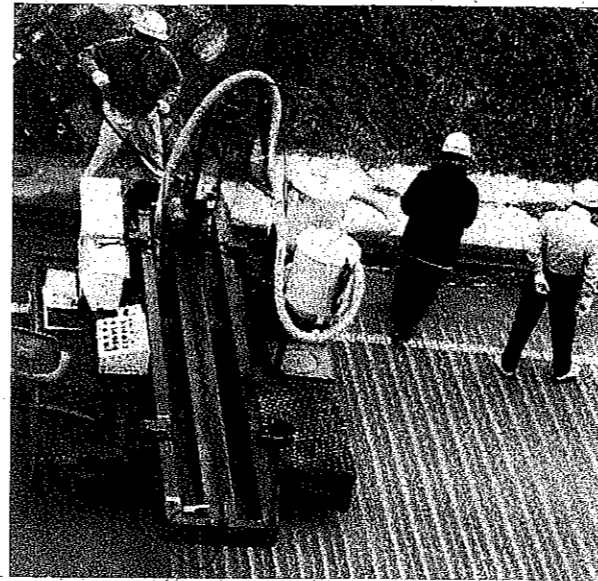
経営、商品開発、海外進出…なんでも相談OK 「よろず支援拠点」

中小企業の頑張り 応援

日本の企業数の99・7%を占める中小企業・小規模事業者を支援する動きが広がっている。中小の製造業やサービス業は、優秀な技術を持ち、質の高い商品・サービスを提供して地域経済を支えている。国、都道府県、市町村の各レベルで、その経営や商品開発、海外展開を支援するメニューもそろっている。2014年度から中小企業・小規模事業者の経営相談に乗る「よろず支援拠点」が47カ所設置された。中小企業の経営が安定的に推移するかどうかは、政府が政策の柱に据える「地方創生」の命運を握っている。各地の中小企業が頑張っている現状をお伝えする。

case 1 音楽聞こえる道 アイデアを形に

車が通過すると音楽が聞こえる「メロディーロード」。このユニークな技術を開発したのは北海道東端に位置する標津町の土木建設業「篠田興業」の篠田静男社長だ。



専用の施工機械で舗装道路にメロディー用の溝を削る様子

舗装道路に数千本の溝を削り、タイヤと路面の接触音が音楽に聞こえる、というアイデアを聞いたのが基本的な仕組みだ。これまで和歌山県紀美野町に「見上げてごらん夜の星を」、大津市に「琵琶湖周航の歌」など国内に11カ所、中国に2カ所施工した。地元ゆかりのある歌が流

れるのは観光振興に役立つ。うた。長野県茅野市の信州ビーナスラインの「スカボロー・フェア」は2009年にカンヌ国際広告祭で金賞を受賞した。

「ド・レ・ミ・ファ」という音階は溝の間隔の長さで、音量は溝の幅で調整する」と篠田社長。きつかけは何だったのか。「北海道の道路は工事用重機で傷ついている箇所がある。若い時、そうした所を車で通ったらグーンと聞こえた。カーブの滑り止めの溝からも音が聞こえた。これは音楽にできるのではとひらめいた」。このアイデアが実を結ぶのは約30年後のこと。パブル崩壊で道路建設などの仕事は激減した。「何か仕事はないかと考えた。その時、道路の音を思い出した。実際に交通量の少ない農道を借りて溝を削り、何度か走行実験をした」と言う。

case 2 デザイン性高い椅子 コスト削減し海外へ

徳島飛行場から車で約30分。宮崎椅子製作所(徳島県鳴門市)の工場では、何人も職人が黙々と作業をしていた。

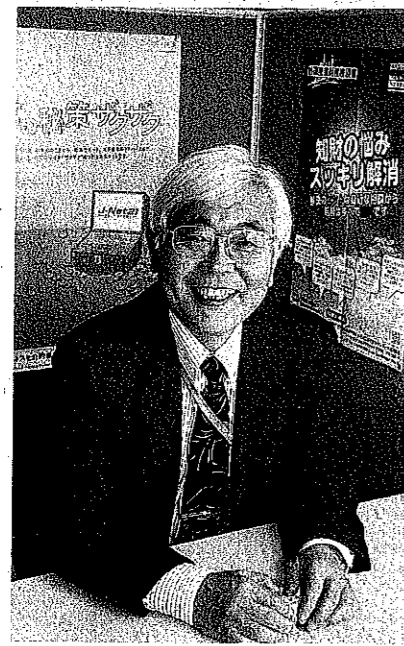


宮崎勝弘社長と人気商品「pepe」

同社は、日本でも珍しい「デザイン性を重視した食卓用の椅子」を中心に製造している。2002年から10年連続でグッドデザイン賞を受賞するなどインテリ

ア業界での評判は抜群だ。会社をけん引してきたのは宮崎勝弘社長だ。「父は、瀬戸内海で網元をしていたが、漁が少なくなり家具製造に転業。婚礼家具や鏡台の前で座るスツール(背もたれのない椅子)を下請けで作っていた。だが、婚礼家具も売れなくなり、今から15年前にデザインチェアの世界に飛び込んだ」と話す。「心掛けたことは、他社にない自分たちだけのオリジナルチェアを作ろうということ」と振り返る。外部デザイナーに図面を描いてもらい、デザイナーに工場に来てもらって、徹底的に議論して椅子を完成させた。

ヒット商品「pepe(ペペ)」は、肘掛けや椅子の脚が細くおしゃべりなデザイン。座ってみると、安定感があり、座り心地もいい。一見しゃべりに見えるが、軽く丈夫。「長くお使いいただけるように作ってある」と宮崎社長。12年からは、世界最大の家具見本市「ミラノ・サローネ」に出品している。木工技術やデザイン性の高さが評価され、欧州各地から問い合わせや共同開発の打診があつたという。



山形県よろず支援拠点は、全国でも珍しい県内2カ所の窓口(山形市、米沢市)で昨年6月にスタートしました。スタッフは金融やIT関係、ものづくりなどそれぞれ得意分野を持つ7人。「結果が出るまで」「継続的に」を信条に、経営上のあらゆる相談に対応しています。昨年6〜12月末までの相談対応件数は全国で7番目に多い1655件でした。相談者は飲食、販売業などいわゆる「街のお店屋さん」が中心です。店を空けるのは大変だろうと、出張相談も受け付けています。

普段着でぜひ気軽に

山形県よろず支援拠点 成澤 郁夫さん
コーディネーター

これまでの事例としては、ネット通販の強化を希望する輸入古着店経営者にホームページの刷新などを具体的に提案。その結果、売り上げが前月比で倍増し「相談してよかった」と喜んでいただきました。新商品のソフトクリームの売り上げ拡大を目指す相談者には、イメージに合ったポップ作成やプレスリリースをアドバイス。マスコミに取り上げられ、来店者が前年比100人増加したというケースもありました。どんな難しい問題でも、私たちは「分からない」と言いません。結果が出るまで、総合的に支援します。どうぞ普段着のまま、とにかく気軽にお越しください。お電話ください。お待ちしております。

山形窓口(霞城セントラル13階)＝023(647)0708
米沢窓口(山形大学米沢街中サテライトキャンパス内)＝0238(40)0764

海外への輸出は輸送コストが高いのが難点。そこで、中小企業基盤整備機構などが支援し、工場で製造したパーツを現地で組み立てる「ノックダウン方式」での椅子製造を提案。輸送コストを6分の1に抑えることが可能になった。会社の評判を聞いて、各地から若い職人が集まってくる。「社員が気持ちよく仕事をできるのが一番大切だ」と言う社長の言葉が心に残った。